

山梨県早川町奈良田方言の原因・理由表現

吉田 雅子

(1)はじめに

ここでは、山梨県南巨摩郡早川町奈良田方言の原因・理由表現について報告する。調査項目は、「原因・理由表現 共通調査項目」に掲載した全項目である。

奈良田方言は、言語島として、山梨方言の3区分(山梨東部方言、山梨西部方言、奈良田方言)のうちの1つと見なされる。南アルプスの奥地に位置し、昔より「陸の孤島」と称され、周辺の他集落と異なる生活様式や伝統文化をもつ集落である。2009(平成21)年現在で人口は40人弱、高年層がほとんどである。奈良田の人々は、伝統的な奈良田方言と、共通語的な山梨方言との、2つの言語体系を有しているといえる。本稿では、伝統的な奈良田方言での原因・理由表現を調査した。原因・理由表現にはドーデ、デ、ニなどが用いられるのが特徴である。

(2)調査の概要

話者は、深沢和江氏。1929(昭和4)年生まれ(2007(平成19)年の調査時満77歳)の女性である。在外歴はなく、両親とも山梨県早川町奈良田生まれである。夫も奈良田生まれで、話者は生家から転居したことがなく、夫が移籍した。

話者は、奈良田方言話者としての意識が非常に高く、また言語感覚も鋭い方である。普段の言語生活を調査の場でもいきいきと再現できる方で、2007(平成19)年2月の最初の調査では、調査文を見てそれを自分の生活にひきつけ、より談話に近い形で回答して下さった。その回答をもとに、2009(平成21)年6~9月の調査では調査文に即した回答を求め、奈良田方言で言う可能性のある別の表現についても確認し、適切な奈良田方言訳を確定した。それを読み上げていただき、音声を録音した。以下の方言文は、この録音データの聴き取りに依っている。

調査は、いずれの回も吉田が行った。吉田は山梨県甲府市出身で、母語方言は山梨西部方言である。

奈良田方言の音韻の特色としては以下のようなものがある。

- ・ガ行鼻濁音がある。
- ・/tu/ (トゥ)、/du/ (ドゥ)があり、共通語の/cu/ (ツ)はほぼ規則的に/tu/に置き換わる。共通語の/zu/ (ズ)においては、歴史的仮名遣いで「づ」で表記されるものが多く/du/に置き換わる。

(例) ネットゥ (熱)、アトゥギ (厚着)、シドゥカ (静か)、ミドゥタマリ (水たまり)、ケッコンシテルドゥラ (結婚しているのだろう。推量助辞の「ズラ」)

アクセントは、奈良田方言は周囲と異なり言語島の様相を示すことはよく知られている。話者は奈良田方言アクセント体系を保持し、回答でもそれがよくわかる。

原因・理由表現の形式としては、以下のようなものが出た。あらあらの説明になるが、

- ・ドーデ: 特殊な指定のダが、当該地域ではドーになり、それにデが付いた形。「~のだで」や「~ので」に相当する。
- ・デ: 「~ので」に相当する形。
- ・ドーニ: 特殊な指定のダが、当該地域ではドーになり、それにニが付いた形。「~のだに」や「~ので」に相当する。「~のに」に相当する用法もある。

- ・ニ：「～ので」に相当する形。「～のに」に相当する用法もある。
- ・ドーモノ（一）：当該地域で用いられるドーに終助詞の「モノ（一）」が付いた形。
のようにいえる。

調査結果全体を見ると、「ので」相当の形式が多く用いられることがわかる。共通語では「から」を用いるところ、「ので」相当のドーデ、デ、ニが出現する。

(3) 文字化について

- ・調査文番号の後に、カタカナ表記の文節分ち書きで調査結果回答を示す。原因・理由表現相当形式に下線を付す。
- ・複数の例文が発話された場合、原因・理由表現を用いた回答を示す。
- ・複数の形式が使用できる場合、{ } に入れ、/で区切って発話順に列挙する。
- ・ガ行音は鼻濁音で発音されるが、「ガギグゲゴ」で表記する。
- ・必要に応じ、次のように注記を付す。

注：調査者による付加情報。

話者注：話者による付加情報。

1 「から」と「ので」の用法

1-1 事態の原因（接続調査を兼ねる）

以下に見られるように、事態の原因の用法ではドーデが用いられる。ドーデは活用語の終止形、体言に後接する。

- 1-1-1 マイニチ アメガ フルドーデ センダクモノガ カワカノー。
- 1-1-2 マイニチ アメドーデ センダクモノガ カワカノー。
- 1-1-3 テンキガ ヨイドーデ センダクモノガ ヨク カワク。
- 1-1-4 コノヘヤー シドゥカドーデ シゴトニ シューチューデキル。
- 1-1-5 ユンベ オーアメガ フットードーデ ジメンニ ミドゥタマリガ デキテドーガ。
- 1-1-6 コドモドーデ ワカラナカッター。

1-2 行為の理由（後件のモダリティ制限の調査を兼ねる）

以下に見られるように、行為の理由の用法では、後件が叙述、意志、勧誘の場合にドーデとニが用いられる。後件が命令、依頼の場合はドーデが用いられる。

- 1-2-1 アンバイガ ワルイ {ドーデ/ニ} シゴトー ヤスム コトニ シトー。
- 1-2-2 アンバイガ ワルイ {ドーデ/ニ} シゴトー ヤスマズ。
- 1-2-3 ヨミチワ クライ {ドーデ/ニ} イッショニ イカザー。
- 1-2-4 アカゴガ ネットールドーデ シドゥカニ シテクリョー。
- 1-2-5 アカゴガ ネットールドーデ シドゥカニ シテクレデヨ。
- 1-2-6 アメガ フルドーデ カサー モッテ イカデヨ。

1-3 判断の根拠

以下に見られるように、判断の根拠の用法では、ドーデ、デ、ニが用いられる。

- 1-3-1a ホシガ デテル {デ/ニ} アシタモ ヨイ オテンキニ ナルラ。
- 1-3-1b A：アシタモ ヨイ オテンキニ ナルラ。
B：ドーシテ ワカルー。

A: ホシガ デテル {ドーデ/デ}。

1-3-2 ヒダリテノ クスリユビニ ユビワオ ハメテールドーデ ケッコシテルドゥラヨ。

注: 文末は推量形式の回答になった。

1-3-3 セキガ デタリ, ネットウツポイドーデ カゼオ ヒートードゥラカ。

1-3-4 ハジメ シンブンハイタトゥノ オトガ シトドーデ ハイ ゴジョーバ スギトードゥラヨ。

話者注: ハジメは「さっき」の意。

1-4 発言・態度の根拠

以下に見られるように, 発言・態度の根拠の用法では, デが用いられる。

1-4-1 アブナイデ コノ カーラジャー アスンヂョデヨ。

1-4-2 カゼオ ヒーチャー ナラノデ アトゥギオ シテ イカデヨ。

1-4-3 キョーノ シゴトワ ミンナ オワットデ, ハイ ヒッカエラザ。

1-5 理由を表さない用法

以下に見られるように, 理由を表さない用法では, ドーデ, ドーニ, デが用いられる。

1-5-1 チュード カイツテ クルデ ココデ マツテデヨ。

1-5-2 イチドデ ヨイドーデ ピラミッドチュー トコイ ノボツテ ミタイ。

1-5-3 ゴムシンドーニ ゼニョー カイテ クレデー。

1-5-4 クルマー ヨンデ ヤルデ チュード ビョーインサ イカデーチャーダヨ。

1-5-5 トウクエノ ウィエー オイトドーデナヨ オレガ サイフ モツテ キテクリョー。

1-6 原因・理由節の述語用法 (XはYからだ)

以下に見られるように, 原因・理由節の述語用法では, ドーデが用いられる。他の形式は使われない。

1-6-1 A: キモチガ ワルイ。

B: アガーニ ガイニ ノムドーデ。

1-6-2 A: キョーワ デパートガ コンデルナー。

B: キョーワ ニチョービドーデ。

1-6-3 A: コノゴロ タローノ キゲンガ ワルイ。

B: オイシノ ジローガ コトオバッカ ホメルドーデソ。

1-6-4 A: コノゴロ タローノ キゲンガ ワルイ。

B: オレガ ジローガ コトオバッカ ホメルドーデドゥラカ。

1-6-5 A: コノゴロ タローノ キゲンガ ワルイ。

B: ジローオバッカ ホメラレルドーデカモ シレノーヨ。

1-6-6 A: ヒッコシノ アト, パソコンノ チョーシガ ワルイ。

B: ソリヤー ハコブ トキ オトイトドーデドーヨ。

1-7 従属節内のモダリティ表現

1-7-1 伝聞・推定表現など

以下に見られるように, 伝聞のソー, 推定のラシー, 可能性判断のカモシレノーには, ドーデ, ドーニが後接する。

- 1-7-1-1 コンヤー アメガ フリソードーニ ハヤメニ ヒッカエラズヨ。
 1-7-1-2 コンヤワ アメガ フルラシードーデ ハヤメニ ヒッカエラズヨ。
 1-7-1-3 コンヤワ アメガ フリソードーデ ハヤメニ ヒッカエラズヨ。
 1-7-1-4 ドーモ ネットウガ アルヨーノコトドーデ ハヤメニ カエルコトニ シトー。
 1-7-1-5 アメガ フルカモシレノドーデ カサー モッテキトーイソ。

1-7-2 推量表現

以下に見られるように、現在推量のラ・ドゥラ (奈良田以外の山梨方言ではズラ)、過去推量のツラにはニが後接し、他の形式は用いられない。

- 1-7-2-1 アメガ フルラニ カサー モッテイカデ。
 1-7-2-2 ヤマジャー カナリ ユキガ フツツラニ ナダレガ シンパイドー。
 1-7-2-3 タイシタ アメニワ ナラナイラニ カサワ モッテ イカノー。
 1-7-2-4 ソトワ サブイラニ アトウギオ シテ イカズ。
 1-7-2-5 コノブンダト アシタモ アメドゥラニ イェンソクワ ヤメニ ナルラ。

1-7-3 丁寧表現

以下に見られるように、奈良田方言では「です・ます」による丁寧表現は用いられず、常体にドーデが後接して原因・理由を表す。

- 1-7-3-1 チョックラ ハナシガ アルドーデ ココエ キテ クレデー。
 1-7-3-2 アブナイドーデ トビノリオバ ヤメロー。
 1-7-3-3 ウマレトー イェーノ オトッサント オカーサンガ ウラガ トコイ クルドーデ
 キョーワ インメー ハヤク カエラシテ モライタイドーガ ヨイラカ。

1-8 文末用法

1-8-1 倒置

以下に見られるように、倒置の用法では、ドーデ、デが用いられる。

- 1-8-1-1 ココデ チョックラ マッチテーデヨ。 チュード モドッテ クルデ。
 1-8-1-2 ゴムシンドーニ、ゴセンエン カイテクレデー。 トウキマトウマデニャー カエス
ドーデ。
 1-8-1-3 テーシャバマデ ムカーニ キテ クレデヨ。 シチジニャー カットウクデ。

1-8-2 終助詞的用法

以下に見られるように、終助詞的用法では、ドーデ、デ、ニが用いられる。

- 1-8-2-1 アトデ イマイチド デンワ スル {デ/ニ}。
 1-8-2-2 チョックラ イッテ クルヨ、 オヤトウワナーヨ プリンガ レーゾーコニ ハイッ
 テル {ドーデ/ニ}。
 1-8-2-3 オイシノ コトワ ゼッタイ ワスレノー {デ/ニ}。
 1-8-2-4 オトッサンニ イートウケテ クレルニ。
 1-8-2-5 ゴジゴロマデニャー イェキマーノ キッサテンニ イルデヨー。
 1-8-2-6 チョックラナーヨ スーパーマデ カイモンニ イッテ クルドーデ。
 1-8-2-7 ヒミトウオ イッターラ ホンコニ ユルサノー {ドーデ/デヨ}。

2 「のだから」の用法

2-1 「から(ので)」との相違

以下に見られるように、奈良田方言では「のだから」と「から(ので)」との相違はなく、「のだから」の用法にもドーデ、デが用いられる。

2-1-1a ジカンガ ナイドーデ イソイドー。

ジカンガ ナイドーデ イソガズ。

ジカンガ ナイドーデ イソイデ セデーチャドーヨ。

2-1-1b ジカンガ ナイドーデ イソガズ。

ジカンガ ナイドーデ イソイデ セデーチャドーヨ。

2-1-2 オテンキガ ヨイ {デ/ドーデ} アリッタ。

2-1-3 マイニチ アメガ フルドーデ センダクモノガ カワカノーヨ。

2-1-4 ユンベ ザヌケダットードーデ ミドゥタマリガ {デテ/デキテ} シマットードーヨ。

注：ミドゥタマリガデテは「水たまりができて」の意。山梨方言では「できる」がデルとなる。

2-2 意味・用法(接続調査を兼ねる)

2-2-1 確かな事実とその当然の結論

以下に見られるように、確かな事実とその当然の結論を表す場合は、ドーデが用いられる。

2-2-1-1 コガーニ ガンバットードーデ コンダー ウマク イクハズドー。

2-2-1-2 ダイジナ ハナシオ スルドーデ オンダチャー アッチエ イカデー。

注：山梨方言では「するので」の形で共通語の「しているので」という意味のAspectを表し得る。

オンダチャーは「お前達」の意。

2-2-1-3 オリヤー シンケンドーデ カマッコヤレ。

2-2-2 聞き手に関する情報—行動要求・認識要求

以下に見られるように、聞き手に関する情報と行動要求・認識要求を表す場合は、ドーデ、ドーモノーが用いられる。

2-2-2-1 オイシャー ワカイドーモノー イチドヤ ニドノ シツパイデ クヨクヨシチョー。

注：ドーモノ(一)は、奈良田で用いられるドーに終助詞の「モノ(一)」が付いた形で、「~のだもの」に相当する。

2-2-2-2 オイシャー ジュケンセードーデ マット シンケンニ ベンキョーセデヨ。

2-2-2-3 セッカク ガイコクノ ガッコーサ イクドーデ チャント ベンキョーシテ コデヨ。

2-2-3 後件が聞き手の利益になる事柄の場合

以下に見られるように、後件が聞き手の利益になる事柄の場合は、ニやドーデが用いられる。ニがよりそぐうようである。

2-2-3-1 ジカンワ マダ アルニ ユックリ シテ イカンナ。

2-2-3-2 チャンスワ マダ アル {ニ/ドーデ} ゲンキオ ダサデヨー。

2-2-3-3 ハイ チュード ターインデル {ニ/ドーデ} アト インメードーデ シンボー シテーデヨー。

注：ターインデルは「退院できる」の意。山梨方言では「できる」がデルとなる。

2-2-4 倒置

以下に見られるように、「のだから」の倒置用法では、ドーデ、ドーモノーが用いられる。

2-2-4-1 カラダニ キオ トウケデヨ。 ハイ ワカカー ナイドーデ。

2-2-4-2 テマイデ キメデヨー, ハイ コドモジャ ナイドーデ。

2-2-4-3 ソリヤー シンパイセジャー, オヤ {ドーデ/ドーモノー}。

注: シンパイセジャーは「心配せずよ(心配するだろうよ)」が元の形。オヤドーモノーは「親だもの、親なんだもの」にあたる。

2-2-5 終助詞的用法

以下に見られるように、「のだから」の終助詞的用法では、ドーデ、ニが用いられる。

2-2-5-1 オリヤー ゼツタイ アノ シトト ケッコンスル {ドーデ/ニ}。

2-2-5-2 オレガ アマイ カオー スルト チュード チョーシニノル {ドーデ/ニ}。

2-2-5-3 アノ ヒター ダメドー サケックセガ ワルイドーデ。

3 接続詞「だから」の用法

以下に見られるように、接続詞「だから」にあたる形式はソードーデのみである。別の形式は用いられない。

3-1 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件が同一の話し手によるもの

3-1-1 コノゴロ マイニチ アメガ フル。 ソードーデ センダクモノガ カワカノー。

3-1-2 ハイ イェーオ デル ジカンノ サンジツプン マエドーヨ。 ソードーデ ハヤクオキロ。

3-1-3 チュード モドッテ クルヨー。 ソードーデ ココデ マッテテ クレデヨー。

3-2 接続助詞「から」の文に言い換えられ、前件・後件の間に話者交替があるもの

3-2-1 相手の発話中の事態Pを受け、それから導かれる帰結Qを述べるもの

3-2-1-1 A: コノゴロ マイニチ アメガ フルダイ。

B: ソーヨナー。 ソードーデ センタクモノガ カワカデ コマルイソ。

3-2-1-2 A: キョーワ ナンダカ フリソードーデ。

B: ソードーデ カサー モッテイカデーヨ。

3-2-2 聞き手に結論を求めるもの

3-2-2-1 A: タイヘンドー, アメガ フッテ キトーヨ。

Bb: ソードーデ ナニー?

話者注: Ba, Bc のような言い方は奈良田ではしない。

3-2-3 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既知の事態Qの原因・理由であると認定するもの

3-2-3-1 A: ジコデ デンシャガ オクレテルドーツチューヨ。

B: マーソーカ。 ソードーデ ミンナガ マダ コデニー。

3-2-3-2 ソードーデ レンキューノ トキ デカケルァ イヤドーニ。

3-2-3-3 ソードーデ レンキュードーデ デカケルワ イヤドーヨ。

3-2-4 相手の発話中の事態や発話時の状況Pが、既に行った発話行為Qの理由であると認定するもの

3-2-4-1 ソードーデ ヤメロチテ イットージャ ナイカヨ。

3-2-4-2 ソードーデ シチョッチテ イットージャ ナイカヨ。

3-3 接続助詞「から」の文に言い換えられず、「あなたもわかっているはずなのに」という話し手の態度を表すもの

3-3-1 「あなたが…と言うから私は～と言う」という発話行為間の因果関係があるもの

3-3-1-1 A : ハジメ タノンドー シゴトー チャント ヤッテヨー。

B : オー キョージューニ スルヨー。 イマ インメー イソガシーソードーデ デキノーガ ヤルヨー。

A : アシタマデニ セデヨー。

Ba : ソードーデ キョージューニ ヤルチテ イッテルジャ ナイカヨ。

Bb : ソードーデ キョージューニ ヤルヨ。

3-3-1-2 A : キョーワ ゴムシンニ キトードーガ。

B : ナニヨー, ハナイテ ミデー。

A : ウントナーヨ ダイジナ コトドーヨ。

B : ソードーデ ハナイテ ミンナ。

3-3-2 発話行為間の因果関係がないもの

3-3-2-1 A : ハジメ タノンドー シゴトー ヤッテ クレテカー。

B : ナニー, ナンノ コトー。

A : ソードーデ ゴゼンチューニ タノンドー アノ シゴトドーヨ。

3-3-2-2 A : キョーワナーヨ チョード タナカサンニ イキヤットー。

B : ドノ タナカサントー。

A : ソードーデ キニヨー ハナイトー サンチョーメノ タナカサンイソ。